

令和4年度 CSR活動報告書

10年後に向けたビジョン

We make

NEW LIFE CENTER

暮らしの真ん中から、まちに彩りを創ろう。

令和5年7月



株式会社 新都市ライフホールディングス

Share the Smile

～人が輝く街、笑顔が行き交う施設～

当社は、総合的な商業デベロッパーとして、
環境と人にやさしい施設づくりに全社をあげて取り組んでいます。

■ 会社概要

社名 株式会社新都市ライフホールディングス
設立 昭和53年(1978年)12月25日
本社 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
新宿アイランドタワー28階
資本金 4,644百万円
登録資格 宅地建物取引業、一級建築士事務所、
建設コンサルタント、マンション管理業、
警備業
主要事業 商業デベロッパー事業
管理組合受託事業
損害保険代理業
コンサルティング受託事業
地域連携活動
役社員数 225人(令和5年6月30日現在)
エリア別施設数(令和5年6月30日現在)
・東京都エリア:28
・埼玉県エリア:18
・千葉県エリア:19
・神奈川県エリア:14
・その他エリア:3

■ CONTENTS

会社概要・CONTENTS	1
当社事業の社会とのつながり	2
CSR活動の推進	
CSR活動基本方針 重点取り組み分野	3
CSRとSDGsの関連	4
CSR活動推進体制	5
令和4年度のCSR活動	
安心・安全な施設づくり	7
環境への配慮	10
地域社会への貢献	13
働き方改革の推進	16
コーポレートガバナンスの徹底	17
環境パフォーマンスデータ	18
社会からの評価	20



■ 当社事業の社会とのつながり

2007年
(平成19年) 「環境と人にやさしい施設づくり宣言」を行い、
「ECO・ハート活動」を通じて環境・社会貢献活動を実践



「ECO活動」

- 省エネ
- CO2削減
- 省資源
- 緑化
- 環境負荷低減
- 事務所内節電



「人が輝く街、笑顔が行き交う施設」

「ハート活動」

- 安心安全
- 利便・快適性
- 防犯・防災
- 迷惑駐車・駐輪対策
- 地域行事・活動へのタイアップ
- 地域交流
- 子育て支援



環境と人にやさしい施設づくり宣言
(2007.2) ※2015.8改定
一部抜粋

- I. 当社施設が環境に与える負荷を最小限にすることを希求し、環境の保全と汚染の防止に取り組みます。
- II. お客様の声に耳を傾けながら、人にやさしい施設をつくり、運営してまいります。
- III. 上記の活動に関連する法律、条例等を遵守いたします。
- IV. 上記の活動について、全従業員及び協力会社に周知徹底するとともに、この宣言を広く一般に公開いたします。

2019年
(令和元年) 様々な社会課題の顕在化・深刻化を受け、当社の事業活動を通じて
持続可能な社会の実現に貢献するための取り組みを推進するため、
「CSR活動基本方針」及び「CSR活動実施要綱」を策定

CSR活動の推進

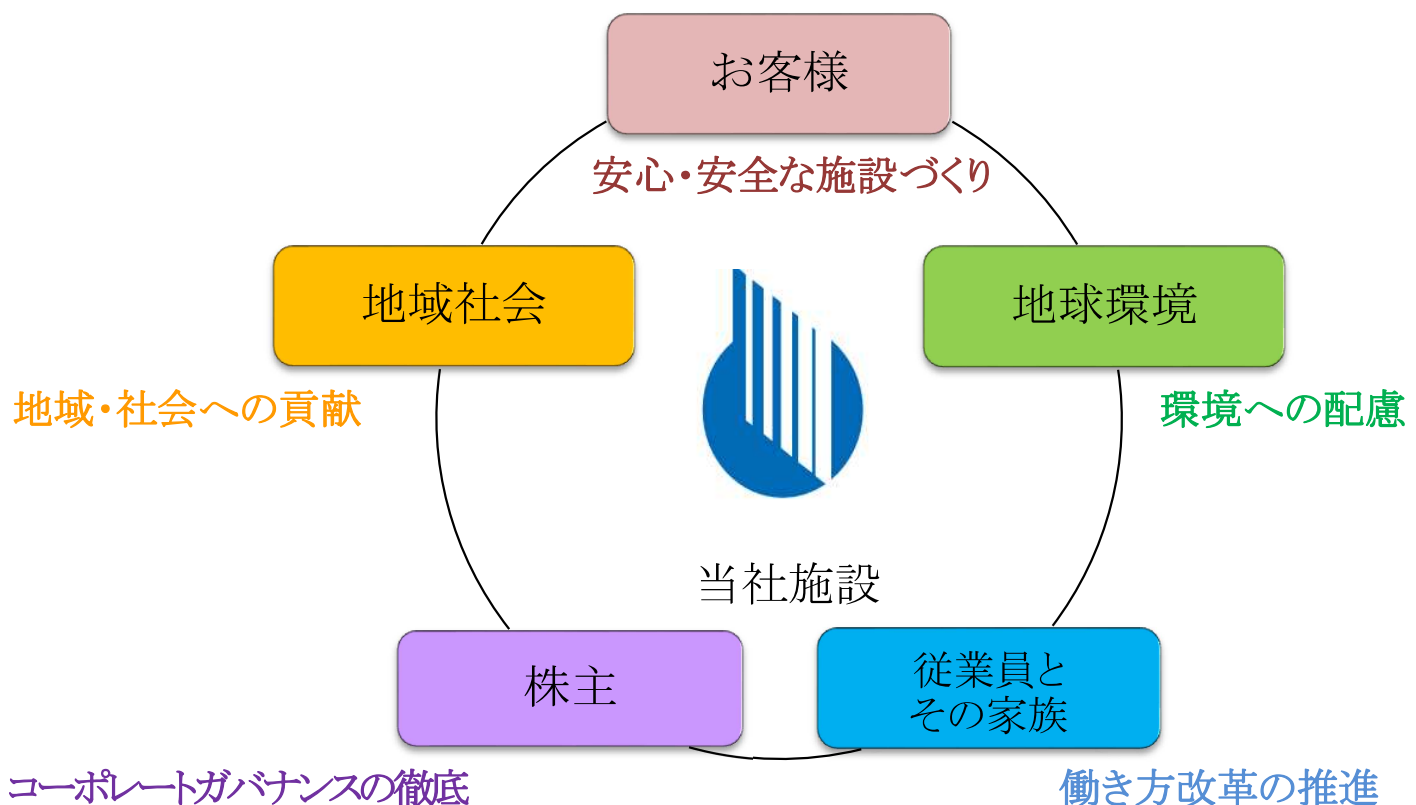
【CSR活動基本方針】

私たちは、企業理念である「人が輝く街、笑顔が行き交う施設」を実現することを使命として日々活動しています。

その中で、社会的責任を果たすことは重要な企業の役割の一つです。これに積極的に取り組むことにより、すべてのステークホルダーの皆様への社会的責任を果たすとともに、持続可能な社会の実現に繋がるCSR活動を推進してまいります。

【重点取り組み分野】

当社は、ステークホルダーの皆様のニーズや期待に応え、社会に貢献しながら持続的に成長していくため、各ステークホルダーに対し果たすべき責任をCSRの重点取り組み分野に設定しています。



【CSRとSDGsの関連】

CSR活動への取り組みを通じて各重点取り組み分野に対応するSDGsの達成に貢献していきます。

安心・安全な施設づくり

お客様(※)とのコミュニケーションを通じて、ニーズの把握に努め、地域にとって有用で、安心・安全な施設づくりに取り組みます。

※お客様…来館者様・入居テナント様を表しています。



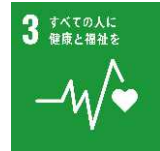
環境への配慮

省資源活動や環境負荷の低減に努め、環境の保全と汚染の防止に取り組みます。



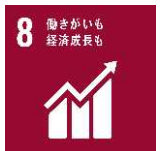
地域社会への貢献

当社の施設を基盤としたまちづくりや地域再生、さまざまな文化・社会貢献活動等を通じて、地域の価値向上に取り組み、地域社会へ貢献していきます。



働き方改革の推進

働きやすい職場環境や仕組みづくりを通じて、従業員の生産性やモチベーションの向上、成長の実現をサポートするとともに、健康な心と体の維持向上を目指します。



コーポレートガバナンスの徹底

コンプライアンス体制やリスク管理など、内部統制機能の強化を通じて中長期的な企業価値の向上を図ります。

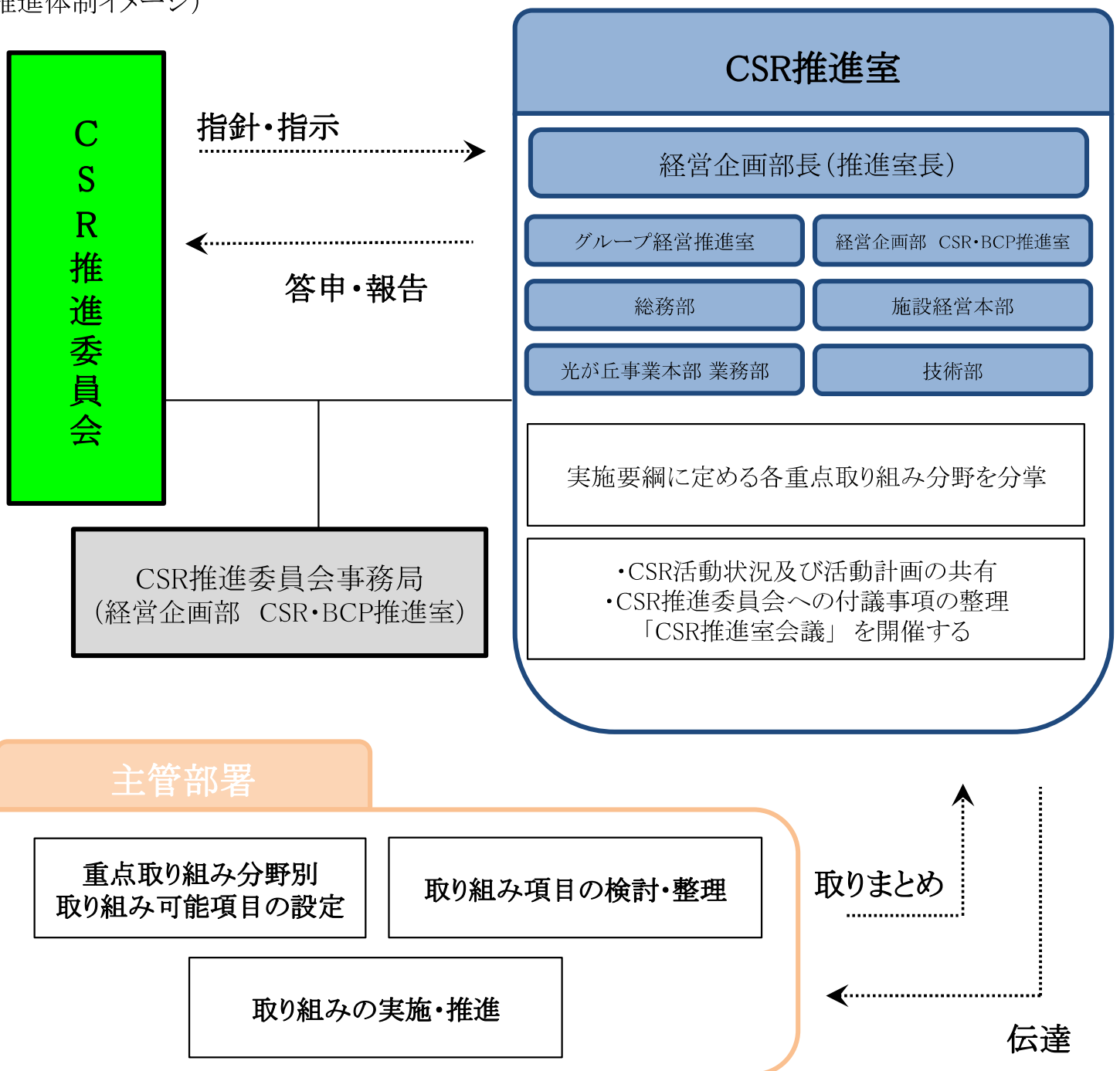


【CSR活動推進体制】

全社でCSR活動を推進するにあたり、本活動に関する重要事項についての意思決定を行うため、CSR活動推進体制を構築しています。

当社のCSR活動に関する重要事項の意思決定機関としてCSR推進委員会を設置し、活動方針の策定や活動の推進方法及び進捗状況等のほか、省エネルギー法や地方公共団体条例に基づく計画書・報告書について検討・審議しています。また、その下部組織としてCSR推進室を設置し、各重点取り組み事項を担う主管部署における活動計画・活動内容に関する連携を行っています。

(推進体制イメージ)



■ 令和4年度のCSR活動

令和4年度においても、様々なCSR活動を実施してまいりました。
ここでは、その主な取り組みの一部を紹介します。

安心・安全な 施設づくり

- ・ 防災への取り組みの推進
- ・ 品質・お客様満足度の向上

- ・ 省エネへの対応
- ・ 脱炭素社会へ向けた取り組み
- ・ 新規開発における環境への配慮

環境への配慮

地域社会への 貢献

- ・ 施設活性化による地域貢献
- ・ IMAホールにおける地域貢献活動
- ・ 社会課題解決に寄与する取り組み

- ・ 働きやすい職場づくり

働き方改革 の推進

コーポレート ガバナンスの 徹底

- ・ コンプライアンスの徹底
- ・ 情報セキュリティ対策

安心・安全な施設づくり



防災への取り組みの推進

当社は「防災等対策マネジメント要領(BCM)に基づき、事務所や管理する施設等において防災訓練を毎年実施しています。

<社内防災訓練>

就業時間外に首都圏で震度7の巨大地震が発生したとの想定の下、本社を含む全指定事業所において訓練を実施し、初動対応の確認訓練を行いました。

訓練を通じて得られた成果と課題について検証し、更なる改善を行い、安心・安全な施設づくりに引き続き全社を挙げて取り組んでまいります。



役社員安否や地震概要等の情報収集

当社役社員の安否状況の集計や、発生した地震の概要や鉄道運行状況等について情報収集を行いました。収集した情報は災害本部内で共有していきます。



施設の被災状況確認

事業所や報告要員から送信された被災状況を確認し、情報整理を行い被害の詳細分析を行いました。被害の甚大な施設については対応を協議していきます。



指定事業所



災害本部 参集状況確認



災害本部 防災関連動画視聴

安心・安全な施設づくり



品質・お客様満足度の向上

当社は日頃より、安心・安全な施設づくりを推進し、品質・お客様満足度の向上につながるサービスや設備の充実に取り組んでいます。

<誰でも利用できる快適な施設づくり>

身障者用駐車スペース・バリアフリートイレ

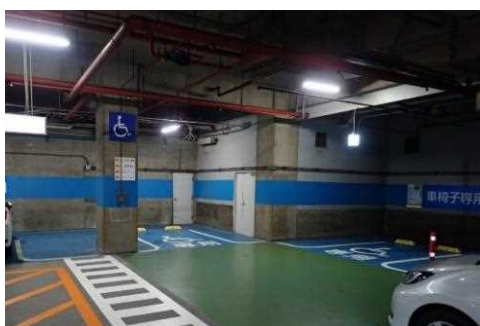
当社では誰もが快適に施設を利用いただけるよう、身障者用駐車スペースの確保やバリアフリートイレの設置をしております。

令和4年度 高齢者・障害者等向け客用設備の設置率

身障者用駐車スペース設置率	バリアフリートイレ設置率
70.9% (39施設/55施設 ※1)	64.0% (16施設/25施設 ※2)

※1 身障者用駐車スペース : 駐車場部分を当社が単独所有していない施設を除く

※2 バリアフリートイレ : トイレ部分がテナント資産及び管理組合共用部分に属する施設を除く



安心・安全な施設づくり



品質・お客様満足度の向上

赤羽アピレ(東京都北区)

赤羽アピレでは様々な特性を持つ全てのお客様に、安心・安全にご来館いただける施設を目指し、心のバリアフリー推進施設としてサービス介助士資格(※1)の取得や「ココロのバリアフリー応援店(※2)」への加盟、またテナント従業員向けにマニュアルの作成・配布を行なっています。

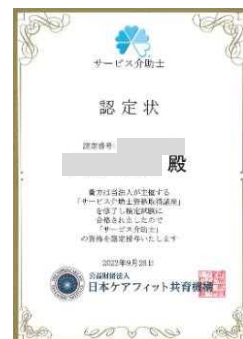
高齢者や身体の不自由な方、様々な特性を持つ全てのお客様がさらに安心・安全にご来館いただける施設となるよう、今後も取り組んでまいります。

※1 サービス介助士資格(NPO法人日本ケアフィット共育機構より)

サポートを必要としている人に適切な対応がとれるよう「おもてなしの心」や「介助技術」を身につけるため、NPO法人日本ケアフィット共育機構が主催する認定制度による民間資格。

※2 ココロのバリアフリー応援店(HEART BARRIER FREE PROJECTより)

NPO法人ココロのバリアフリーが運営する加盟制度であり、バリア・バリアフリー関係なくできる限りのお手伝いを行うお店や場所のこと。



サービス介助士 認定状

<設備の安全性確保>

シャッター更新工事 危害防止装置の取り付け

パトリア桶川(埼玉県桶川市)等をはじめとする複数施設において、シャッター更新時期に合わせた危害防止装置の取り付けを実施しました。

危害防止装置とは、非常時に降下中の防火シャッターに人が挟まれる事態を防止するための安全装置です。降下中に障害物を検知した際にシャッターを停止させることで、事故を未然に防ぐ効果があります。



階段手摺設置工事

リプレ川口(埼玉県川口市)・ゆみ〜る鎌取SC(千葉県千葉市)において、施設の安全面を配慮して階段に手摺を設置しました。



環境への配慮



省エネへの対応

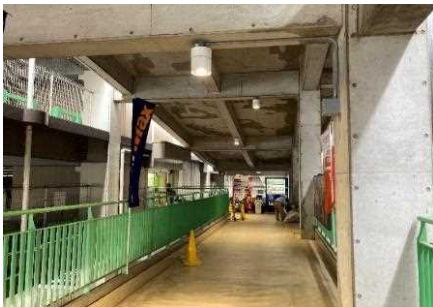
<照明のLED化>

令和4年度も複数の施設において、照明器具更新時期に合わせたLED化を実施しました。これにより、当社施設における照明器具(※)の70.4%がLED照明となっています。

LED化により、従来器具を使用する場合に比べて省エネ効果が期待されることから、今後も計画的にLED化の推進に取り組んでまいります。

※ 当社資産の一般照明及び屋外照明

守谷テラス(茨城県守谷市)



2階連絡通路

パトリア東大宮
(埼玉県さいたま市)



EVホール

新本牧SP(神奈川県横浜市)



外灯

<セルフビズの開始>

当社では令和4年11月から「クールビズ」に代わり「セルフビズ」を開始しました。TPOをわきまえつつ、ノーネクタイ等の働きやすい服装を各個人の判断で選択し勤務することで、空調設備の使用量削減が期待されるとともに、環境面だけでなく柔軟な働き方の実現にも寄与しています。

本社・各拠点にポスターを掲出し、セルフビズの周知・促進をしています。



環境への配慮



脱炭素社会へ向けた取り組み

<太陽光発電による再生可能エネルギーの活用>

再生可能エネルギーを有効に活用するため、光が丘IMA中央館(東京都練馬区)の立体駐車場屋上 及び 野田みずきショッピングセンター(I)(千葉県野田市)の屋根に太陽光発電装置を設置し、平成26年度より売電を開始しています。

令和4年度 発電実績とそれによるCO2削減量

施設	発電量 (KWh)	CO2削減量 (kg)※1
光が丘	141,643	55,169
野田みずき I	48,922	19,055

※1 1,000kWhあたり389.5kgで換算
(太陽光発電協会 表示ガイドラインより)



野田みずきショッピングセンター(I)

<エコキャップ回収運動>

平成20年8月より、本社をはじめ各拠点にてペットボトルキャップ回収運動(エコキャップ運動)を実施しています。エコキャップ運動はリサイクルの促進、CO2の削減、医療支援を目的とし、回収したキャップはリサイクル業者を通じて「NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)」へ寄付され、発展途上国の子どもたちへのワクチン代として役立てられています。

令和4年度 ペットボトルキャップ回収実績

回収重量(kg)	回収個数	CO2削減量(kg)※2
1,260	630,000	3,969

(参考)前年度までの累計回収実績 (平成20年度～令和3年度)

回収重量(kg)	回収個数	CO2削減量(kg)※2
22,221	9,745,135	69,996

※2 キャップをゴミとして焼却した場合の発生量
キャップ1kgで約3.15kgのCO2が発生(NPO法人エコキャップ推進協会HPより)



光が丘IMA
キャップ回収ボックス

環境への配慮



新規開発における環境への配慮

< ヨキヒ吉祥寺 開業 >

令和5年4月25日に「ヨキヒ吉祥寺」が開業しました。当施設は、屋上緑化やLED照明といった環境に配慮した設計に基づき、さまざまな方にとっての「吉」を感じられる日をお届けすることを目指した商業施設であり、関東初出店や新業態の飲食店といったこだわりのお店 全6店舗で構成されています。

ヨキヒ吉祥寺 施設概要

所在地	東京都武蔵野市 吉祥寺本町二丁目16番12号
建物構造	RC造・鉄骨造 地下1階地上3階建て
延床面積	1,521.33㎡
敷地面積	576.31㎡
竣工	令和5年3月
開業	令和5年4月25日
テナント	NOAH STUDIO / NOA DANCE (B1F) あいすの家とエトセトラ (1F) SIAM SMITH (1F) 金星パスタカフェ (2F) 京ちゃばな (2F) THE SALONS 吉祥寺 (3F)



屋上緑化



施設外観

施設コンセプト 「今日は吉曜日」

“「吉」祥寺の日常でちょっと良い「吉」を提供する”を目指し、「今日は吉曜日」をメインコンセプトとしました。

特別感のある来街ではなく、日常的に利用する中でちょっとした贅沢を味わえ、お気に入りが見つかるような施設となることを目指しています。

地域社会への貢献



施設活性化による地域貢献

当社は新規施設の開発や既存施設のリニューアル及び販売促進活動において、地域のお客様のニーズを捉えた施設づくりや施設の活性化に取り組み、施設運営を通じて街の魅力向上を目指しています。

<販売促進イベントや地域コミュニティの醸成に寄与するイベントの実施>

SHUKNOVA(東京都新宿区)

SHUKNOVAでは、地方と大都市との関係人口づくりの一助として令和4年11月19日から2日間に亘って「北海道ど真ん中フェスタ」を、令和5年3月11日からの2日間では「福島を繋ぐフェスタ」を開催し、マルシェやキッチンカーでの各地域特産物・飲食の提供に加え、地域の情報発信プロモーションや特産品の無料抽選会などを行いました。

■ マルシェ ■



北海道ど真ん中フェスタ



福島を繋ぐフェスタ

各地域の農産物のほか、地元食材を使用した食品や地域内で流通している食品の販売を行いました。懐かしい郷里に思いを馳せる方や、興味津々にご覧になる方など、様々な方がいらっしゃいました。

■ キッチンカー ■



北海道ど真ん中フェスタ



福島を繋ぐフェスタ

地元食材を使用した豚井ステーキ、地酒や道産ワイン等を提供し、休日の公園をのんびりと味わっていただきました。

■ 情報発信ブース ■



北海道ど真ん中フェスタ



福島を繋ぐフェスタ

観光地や名産品を紹介する情報発信ブースを設営し、パンフレット等を通じて北海道・福島県の魅力を感じていただきました。

地域社会への貢献



施設活性化による地域貢献

<赤羽アピレ 既存テナントのリニューアル>

赤羽アピレ(東京都北区)では、地域の方々が頻度よく日常利用できる、より便利でより使い勝手のよい施設を目指し、無印良品のリニューアルオープンや複数テナントの入れ替え等を実施しました。

無印良品については、店舗面積がこれまでの約3倍の広さとなり、今まで以上にゆっくりと店内をお楽しみいただけるようになりました。また新たに冷凍食品の取り扱いが始まり、日常生活を彩る様々な商品をお届けしています。



IMAホールにおける地域貢献活動

光が丘IMA(東京都練馬区) 4階「IMAホール」では、年間を通じて施設の賑わいを創出し、地域への文化や芸術の発信を目的にクラシック音楽、演劇、落語等の公演を開催しています。

「IMA寄席」は春風亭正朝師匠が平成元年の第1回以来主任を務め、木戸銭100円から気軽に本格的な落語を楽しめる落語会として長年地元で親しまれている、IMAホールの看板公演です。この木戸銭は、地域貢献活動の一環として、平成14年から練馬区社会福祉協議会へ寄付しています。



IMA寄席 公演風景



寄付先からの感謝状

令和4年度 寄付金額 457,511円

<参考>前年度までの累計寄付金額

9,174,964円

(平成14年度～令和3年度)

地域社会への貢献



社会課題解決に寄与する取り組み

< フードドライブの実施 >

食品ロスの削減や貧困・飢餓の解決に寄与する「フードドライブ」を社内にて実施しました。

本社に設置した食品回収箱にて各家庭の余剰食品を回収し、集まった食品については日本初のフードバンク実施団体である認定特定非営利活動法人「セカンドハーベスト・ジャパン」を通して福祉施設や児童養護施設等に届けられました。

初の試みとなりましたが、多くの食品が集められたことから、今後も社会貢献の一貫として継続して実施してまいります。

寄贈した食品



< グリーンスローモビリティ運行に向けた取り組み >

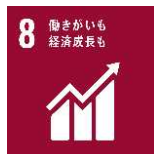
光が丘IMA(東京都練馬区)では、バス等既存の公共交通機関を補完し高齢者の外出を促す役割として「グリーンスローモビリティ(※)」の導入に取り組んでいます。

令和5年3月26日に行われた練馬こぶしハーフマラソンでは車両のお披露目を行い、令和5年4月13日～17日には実証運行第一弾となる試乗会を開催しました。試乗会では地域の方々に実際に乗車していただき、乗車後にアンケートを実施しました。いただいたご意見については、今後の施策に活かすこととしています。



※ グリーンスローモビリティ
時速20km未満での公道走行が可能な
電動車を活用した小さな移動サービス
であり、その車両も含めた総称のこと。
(「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」より)

働き方改革の推進



働きやすい職場づくり

<従業員休憩室及びトイレのリニューアル>

当社施設に勤める従業員の皆様にとって居心地の良い空間となるよう、パトリア東大宮(埼玉県さいたま市)では従業員休憩室のリニューアルを行いました。また、相模原イツツ(神奈川県相模原市)やパトリア品川(東京都品川区)では従業員用トイレの内装リニューアルとして、パウダーコーナーの新設や洗面台の増設を行いました。

引き続き、従業員の皆様にとって快適で働きやすい空間となるよう取り組んでまいります。



パトリア東大宮 従業員休憩室



相模原イツツ 従業員用トイレ

<光が丘事業本部 執務室等の環境改善>

令和4年5月には、光が丘事業本部(東京都練馬区)執務室等における環境改善を実施しました。WEB会議室等 会議スペースの充実やスタンディング作業スペース、集中作業スペース、リフレッシュスペース等を新設しイメージを一新することで、業務効率の向上やオフィス内コミュニケーションの活性化へ繋がりました。



コーポレートガバナンスの徹底



コンプライアンスの徹底

<コンプライアンス意識調査の実施>

日常業務や職場生活について、従業員がどのように感じているかを把握するべく、コンプライアンス意識調査を実施しました。この結果をもとに社内フィードバック(社内報告・規則改正・研修等)を行う予定です。

このほか、社内イントラネットを利用したコンプライアンスに関する周知徹底や、社内及び社外相談窓口を随時周知することで、コンプライアンスに関する更なる認識の向上を目指しています。

情報セキュリティ対策

<標的メール訓練の実施>

重要情報や個人情報の流出は、会社の信用を著しく損なうとともに、大きな損失の発生に繋がります。これらを防ぐためには、システムによる対策だけでなく、社員の意識向上による防御が必要となります。

当社では、標的型メールによる情報漏えいとデータ改ざんのリスクを低減させることを目的として、疑似的な標的型メールを抜き打ちで送信する訓練を実施するなど、組織における情報セキュリティの厳格な管理やリスクの低減に努めております。

環境パフォーマンスデータ

当社全体の消費エネルギー

当社では、「施設のエネルギー消費を5年間平均原単位(エネルギー管理権原面積当たり)で年1%以上低減」という、省エネルギー法に基づいた目標を設定しています。

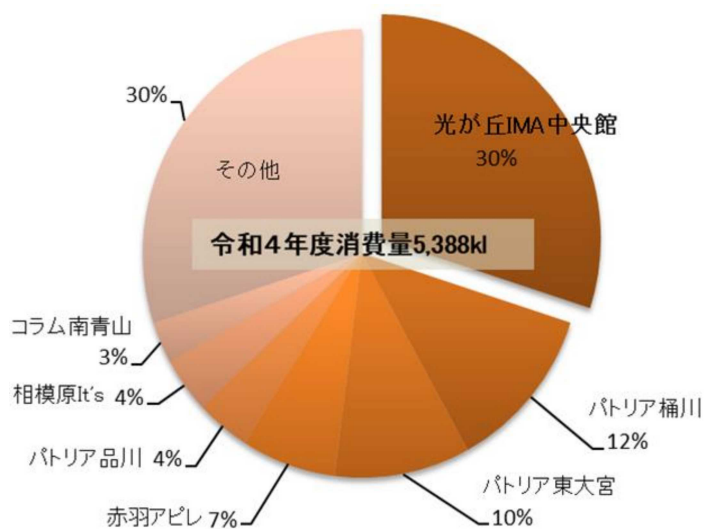
令和4年度も前年度に引き続き、運用上はお客様にご理解をいただきながら、快適な空間を維持しつつ、空調温度設定や空調時間の調整等を行い、さらに、照明設備のLED化等を行い、総合的な省エネルギー化を推進してまいりました。

これらの結果、右表のとおり令和4年度における当社全体(※)でのエネルギー消費量の合計は、原油換算で5,388kl、前年度と比較してプラス11.5%、558klの増加となりました。管理権原面積はプラス12.4%、31,562㎡増加し、原単位はマイナス0.8%となりました(5年間平均原単位はマイナス1.8%)。

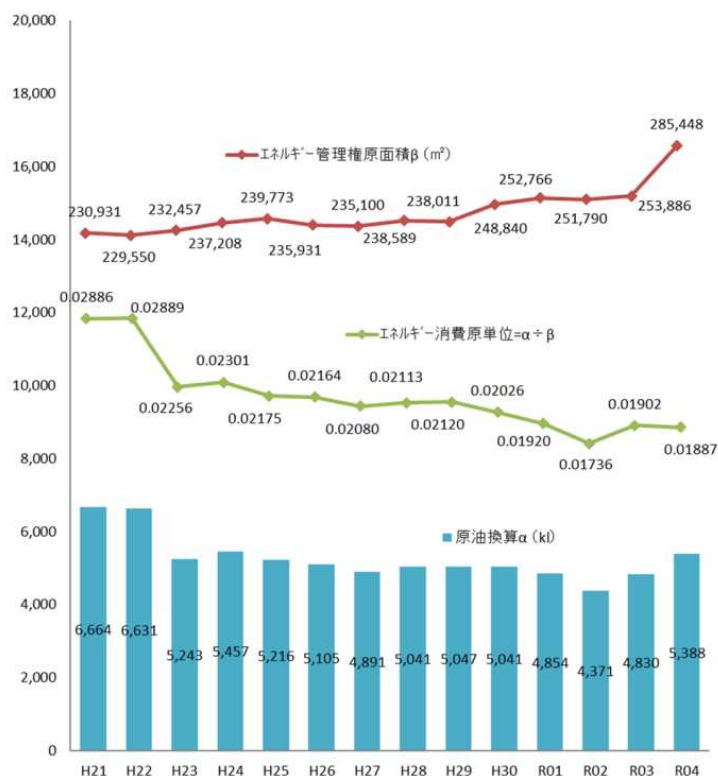
この増減の主な要因としては、令和4年5月にパトリア東大宮が対象施設へ追加されたことが考えられます。(パトリア東大宮:消費量526kl、面積30,572㎡、原単位0.01721kl/㎡)

なおパトリア東大宮を除いた場合の前年度比は、消費量プラス0.7%、面積プラス0.4%、原単位プラス0.3%とほぼ横ばいの推移となりました。

(※)省エネルギー法によるエネルギー管理権原を有する範囲



省エネルギー法によるエネルギー管理権原を有する60施設のエネルギー消費割合



改正省エネルギー法施行後における14年間の当社エネルギー消費量(kl)及び単位面積当たりのエネルギー消費割合

当社施設で最もエネルギー消費量(原油換算)の多い施設は「光が丘IMA中央館」(東京都練馬区)であり、当社全体の30%を占めています。

「光が丘IMA中央館」は、省エネルギー法上の「エネルギー管理指定工場」、東京都環境確保条例上の「特定温暖化対策事業所」に指定されており、当社の目標達成において、最も重要な事業所として位置付けています。

次いで「パトリア桶川」(埼玉県桶川市)が2番目にエネルギー消費量が多い施設です。

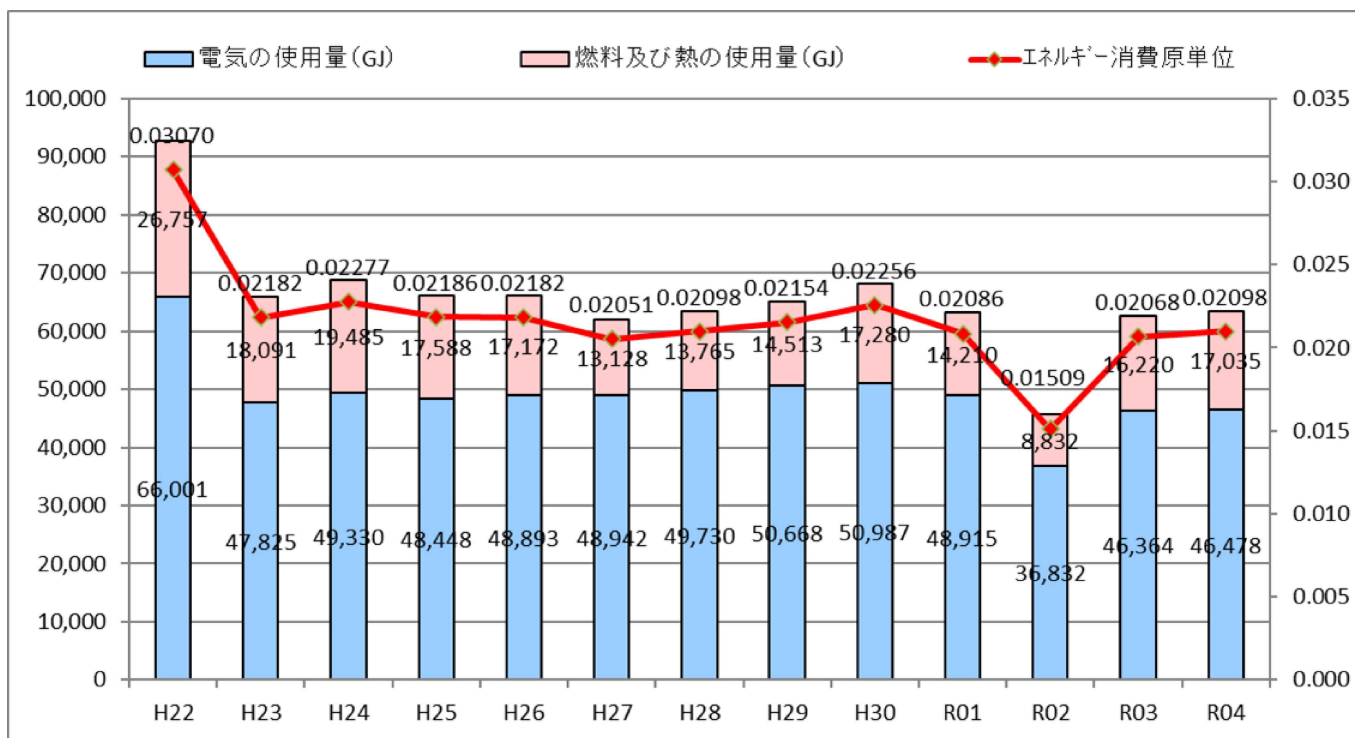
「光が丘IMA中央館」の消費エネルギー

当社全体のエネルギー消費の30%を占める「光が丘IMA中央館」の令和4年度のエネルギー消費量は、原油換算1,639klで、前年比+24kl(+1.5%)となりました。

増加の主な要因は、冬季暖房負荷増の影響が考えられます。コロナ禍で館内各出入口扉の開放状態が多く見受けられ外気の影響を受けたことが要因と思われます。

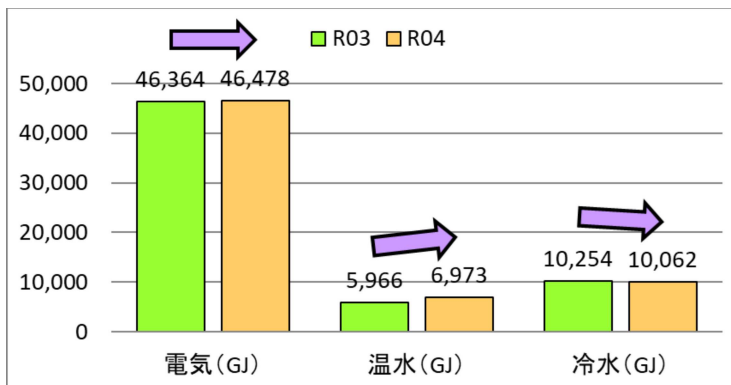
◆エネルギー使用量及びエネルギー消費原単位の変化状況

項目		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04
①	電気の使用量 (GJ)	66,001	47,825	49,330	48,448	48,893	48,942	49,730	50,668	50,987	48,915	36,832	46,364	46,478
②	燃料及び熱の使用量 (GJ)	26,757	18,091	19,485	17,588	17,172	13,128	13,765	14,513	17,280	14,210	8,832	16,220	17,035
③	合計 ③=①+② (GJ)	92,758	65,916	68,815	66,036	66,065	62,070	63,495	65,181	68,267	63,126	45,664	62,584	63,513
④	合計③を原油換算 (kl)	2,393	1,701	1,775	1,704	1,704	1,601	1,638	1,682	1,762	1,629	1,178	1,615	1,639
⑤	エネルギー管理権原対象面積 (㎡)	77,943	77,943	77,943	77,943	78,088	78,088	78,088	78,088	78,088	78,088	78,088	78,088	78,088
⑥	エネルギー消費原単位=④÷⑤	0.03070	0.02182	0.02277	0.02186	0.02182	0.02051	0.02098	0.02154	0.02256	0.02086	0.01509	0.02068	0.02098
	前年度比 (%)	102.5%	71.1%	104.3%	96.0%	99.8%	94.0%	102.3%	102.7%	104.7%	92.5%	72.3%	137.1%	101.5%



使用量 (GJ) 内訳

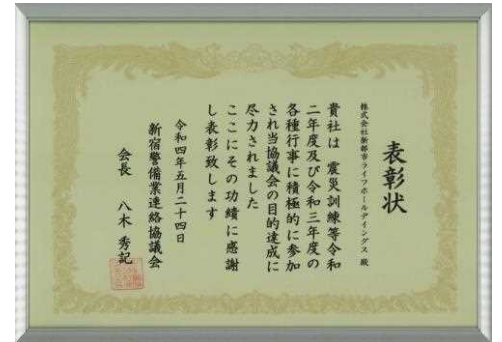
項目	R03	R04	傾向	
電気 (GJ)	46,364	46,478	→	100%
A重油 (GJ)	0	0	-	-
温水 (GJ)	5,966	6,973	↗	117%
冷水 (GJ)	10,254	10,062	↘	98%
燃料及び熱 (GJ)	16,220	17,035	↗	105%



■ 社会からの評価

< 新宿警備業務連絡協議会からの表彰 >

新宿警備業連絡協議会 定期総会における会員表彰にて、当社は会長賞を受賞いたしました。新宿警察関係行事や主催研修会等への積極的な参加が評価されたものです。



< 東京消防庁からの表彰 >

亀有リリオ館・光が丘IMA

東京消防庁開庁75周年にあたり、亀有リリオ館(東京都葛飾区)及び光が丘IMA(東京都練馬区)における自衛消防隊の平素からの活動が評価されました。



亀有リリオ館 自衛消防隊

東京消防庁 消防総監からの表彰。



光が丘IMA 自衛消防隊

東京消防庁 光が丘消防署長からの表彰。



■ 社会からの評価

< 東京都 地球温暖化対策報告書制度において「SSランク」に認定評価 >

当社のCO2削減の取り組みが、地球温暖化対策報告書制度(※1)において3ヶ年連続で「極めて優良な事業者」にあたる「SSランク」に認定評価されました。

※1 地球温暖化対策報告書制度とは

(東京都HPより一部抜粋)

都内で中小規模事業所(※2)を所有または使用している事業者を対象に、各事業所のCO2排出量と地球温暖化対策の状況を「地球温暖化対策報告書」として、東京都に報告する制度。

各事業所のCO2排出量を把握し、地球温暖化対策を継続的に実施することを目的としている。

■ 対象となる事業所

都内の全ての中小規模事業所

■ 対象となる事業者

「対象となる事業所」を所有または使用している事業者

■ 評価指標 (令和2年度から新たに導入)

直近5か年度における下記2項目による

- ・平均CO2削減率(※3)
- ・平均原単位改善率(※4)

取組実績		評価
平均CO2削減率	平均原単位改善率	
1.3%以上	2.6%以上	極めて優良な事業者(SSランク)
1.3%以上	1.3%以上 2.6%未満	特に優秀な事業者(Sランク)
1.3%未満	1.3%以上	優良な事業者

※2 中小規模事業所…年間(4月～3月)のエネルギー使用量が1,500kL/年(原油換算)未満の事業所

※3 平均CO2削減率…年度ごとのCO2削減率の平均値

※4 平均原単位改善率…年度ごとの原単位(延床面積1㎡あたりのCO2排出量)改善率の平均値



令和3年度 当社実績	
平均CO2削減率	平均原単位改善率
2.18%	2.63%

【当社における主な対象施設】

八王子みなみ野シティショッピングセンター
赤羽パルロード I・アピレ
西国分寺レガ
パトリア葛西
パトリア品川
中野坂上サンブライトツイン・アネックス
鶴川台ショッピングセンター
サントウン立花
コラム南青山 他



株式会社 新都市ライフホールディングス

編集方針

◇報告対象範囲◇

本報告書は株式会社新都市ライフホールディングスの本社各部、事業本部、各営業部等のCSR活動の取り組みについて報告しています。

◇報告対象期間◇

令和4年4月から令和5年3月までの活動を中心に記載しています。
ただし、現在進行中のものも取り上げています。

◇出典・参考◇

NPO法人日本ケアフィット共育機構「サービス介助士」
HEART BARRIER FREE PROJECT「ココロのバリアフリー応援店検索サイト」
太陽光発電協会「太陽光発電協会 表示ガイドライン」
NPO法人エコキャップ推進協会「エコキャップ運動とは 地球温暖化」
国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」
※出典・参考文献はすべてWEBサイトより

◇発行◇

令和5年7月

発行部署 株式会社新都市ライフホールディングス
経営企画部 CSR・BCP推進室

〒163-1328 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号 新宿アイランドタワー28階

お問い合わせ先 TEL:03-5323-2325

<http://www.nul.co.jp/>